

## 広東 - 日本経済交流会開く = 汪洋書記が対日合作を強調

5日午前、東京で「2009 中国（広東） - 日本 経済技術貿易合作交流会」が開催され、汪洋氏（中国共産党中央政治局委員兼広東省委員会書記）がスピーチを行った。

汪氏は「日本と各分野で協力をを行い、戦略的互惠関係を促進したい」と語り、今回 100 余社、300 人以上の団員を引き連れて訪日したこと自体がその方針を表明していると述べた。

そして現在の中国経済は 1960 年代の日本の高度成長時代に当たり、経済構造の転換と自主创新型社会の建設という課題に直面しているとの認識を示し、同様の課題を立派に解決してきた日本の経験を学びたいとも述べた。

汪氏は「珠江デルタ改革発展計画」が昨年末に国務院の認可を得て国家戦略に格上げされたことを紹介した上で、広東省のコスト及び市場の優位性と日本の技術優位性を結合させて、相互協力を強化する分野として次の 5 点を提起した。自動車等の先進製造業、物流・金融等の現代サービス業、新素材等のハイテク産業、省エネ、環境保護、低炭素経済、IC、自動車部品、液晶等の輸入と機械電子製品、服装等の輸出を含む輸出入貿易、科学技術、教育、都市建設、長期、安定、全方位協力及び広東企業の対日進出。最後に汪氏は来年 11 月 12 日に広州で開幕する第 16 回アジア競技大会への協力を呼びかけた。

日本側からは直嶋正行経済産業大臣が挨拶し、「わが国はこれまで以上に日中関係を重視する」とした上で、日中韓首脳会談の成果として 2010 年には 3 国間の投資協定に実質合意し、FTA の共同研究に着手する可能性が高いと述べた。

今回の交流会は広東省政府が主催し、日本貿易振興機構の特別協力、当協会等関係団体や企業の後援により実施された。会場は日中双方合わせて 1800 人が参加した。当日は午前の全体交流会の後、立食懇談会をはさんで午後には個別商談も行われた。